

平成28年度 第1回学校評議員会の結果について

平成28年7月22日（金） 本校において佐野高等学校・同附属中学校第1回学校評議員会を行いました。5名の評議員、校長、中高教頭、他関係者が出席し、これまでの本校の取り組みおよび今後の方向性などについて、約2時間にわたり意見交換を行いました。評議員の皆様にはお忙しい中、貴重な御意見をありがとうございました。いただいた御意見は今後の学校運営に活かして参ります。

以下は、その主な内容です。

1 学校長挨拶趣旨

- ・佐野高校としては開校から116年目、中高一貫教育校となり9年目を迎えた。
- ・歴史と伝統を活かしながら、地域と連携をして、新しい時代の学校づくりに取り組んでいる。
- ・本日は、忌憚のない御意見をいただくことで、本校の改善に努めたい。

2 本校からの説明および協議

(1) 中高一貫教育校としての本校の概要について（説明）

- ・教育目標である「国際人として活躍できる真のリーダー」の育成をベースにして、今年度は文科省よりスーパーグローバルハイスクールに指定され、様々な活動に取り組んでいる。
- ・平成20年度に附属中が開校し、男女共学になったため、歴史ある部活動がなくなってしまったが、中高一貫を生かし頑張っている部活動（ラグビー、女子硬式テニス）もある。女子硬式テニスは、栃木国体に向け、強化指定校となっている。昨年度は、陸上部、水泳部では優れた成績を残した。中学入学生は、佐野市内より、他地区からの入学生が増えてきている。
- ・進路について、難関大合格者数は県南では2位である。国公立は160名中50名程度である。SGH指定校となったため、国公立の数よりも、グローバル教育に力を入れた大学への入学も考えていく。

(2) 学校評価について（説明）

- ・生徒による授業評価については、昨年度より、各項目での評価は肯定的な回答が増えている。
- ・SGHの取り組みにより、教育の改革、向上の意識が反映していると思われる。

(3) SGH指定校としての取り組みについて（説明）

- ・県南には、同じような進学校がいくつもあるが、他校と競合するのではなくて、特色のある学校を作っていくことが重要ではないか。本校としては、グローバル教育を採択して取り組むこととした。グローバル教育は国策であり、入試を含めて将来性が高い。昨年はアソシエイト校であったが、今年度は、正式な指定校となった。グローバル教育は週に2、3時間の課題学習が中心だが、普段の学習にもアクティブラーニングを取り入れる等して、教員たちも努力している。
- ・SGHは、高校1年生160名を33グループに分け、そのグループに1名の留学生が入り活動を行っている。7月16日（土）に留学生との顔合わせを行い、今は課題を決定して、夏休み中のフィールドワークに向けて動き出したところ。留学生との交流では、生徒たちは大きな刺激を受け、活動のモチベーションもあがっている。各グループにはタブレットが1台ずつ貸与され、そのグループ内での情報の共有、課題追究、話し合いに活用している。
- ・グループ分けまでには、課題を追究する方法（クリティカルシンキング）やSGHリレー講座、地域フィールドワークなど、自分たちの班の課題研究を進めるための事前学習も行った。
- ・今後は、留学生と協力して課題研究を行い、12月には全部の班による発表会、そして、3月の海外

グローバル研修でのカナダでの発表へとつなげていく。

- SGHクラブとしては、夏休み中に、台湾や福島へのフィールドワーク、大阪でのディベート全国大会への参加も予定している。
- これらの活動の様子は、SGH通信として発行し、中高生全員に配付している。また、ホームページにもアップして広報している。

(4) 魅力ある中高一貫教育校づくりに向けて(協議) ○評議員からの意見●学校側回答

○生徒による授業評価の結果で、中2と高3理Iの回答が、昨年度より低いのはなぜか。

●学習に対する意識の高い学年ではある。それがどう影響しているのか。これからしっかり分析していく。

●「グローバルやるなら佐野高等学校」を合い言葉にして、7月10日には、本校を会場に「英語ディベート講習会」を実施し、足高、栃女など近隣の高校から生徒、教員の参加があった。今後は、佐野市内の中学校も参加しやすい日程等を工夫していきたい。

○昨年、一昨年と、この会議に出席しているが、本当に様変わりした感がある。本校の教育目標「国際人として活躍できる真のリーダーの育成」を真正面からとらえて、よくやっていると思う。

○留学生や大学、地域の企業などとの連携、台湾やカナダの学校との連携するための調整など、この短期間で本当によくやっていると思う。

●大学や台湾、カナダとの連携については、これまで本校が行ってきたことを、昨年度SGHアソシエイトに指定されたことを機会に見直していたことで、実施できていていると思う。

○SGH通信の発行により、実施内容の広報、まとめがしっかり行われていると思う。

○海外グローバル研修の報告書も、内容が充実しているので、今後は、印刷、製本にもっとお金をかけてもいいと思う。

●これまでは、学校で印刷、製本のみ業者。

○文科省のSGHの指定は何年間？

●5年間。5年の後はどうなるか分からないが、本校としては、「グローバルやるなら佐野高校」として、続けていきたい。

○今年度の指定で、4月からここまでの動きは本当に大変だったと思う。この様子は、生徒、保護者にも伝わっていることと思う。

●昨年度のアソシエイトの経験が大きい。仕事量は増えたが、教職員がベクトル合わせてやってくれている。

○SGHのことは新聞で見えていたが、実際に話を聞いてその様子がよく分かった。地域の偉人の田中正造をモデルにしているのもいいと思う。

○授業公開の時に授業を見せてもらったが、わかりやすい授業が多く、生徒もよくやっていた。

○地域からも注目されている学校だが、近隣の学校とは異なる、独自の道を進んでいるのもいいと思う。

○SGHの話聞いて、自分も体験できるなら体験したいと思った。高1生で行っている「クリシン」の考えは、これからの世の中で必ず必要となる。中学生も含め全校生がやれるといいと思う。受験生を育てるのではなく、人格を育てる学校であってほしい。

○「クリティカル・シンキング・プログラム」の本質を本校に合わせて教材化して、「クリシン」の呼び名で生徒に浸透している。本質をとらえた取組が成功していると思う。